

令和2年度神戸市スポーツ推進審議会 議事要旨

日 時：令和2年11月12日（木曜） 10：00～11：40

場 所：市役所1号館19階 大会議室

（会議の成立）

事務局：10名の委員中、8名出席のため会議の成立を確認。

（議事① 新型コロナウイルス感染症によるスポーツへの影響について）

会 長：2つの施設が新たに整備されることは、嬉しい報告である。

ここ数年、公共スポーツ施設は整備されていなかった。

委 員：トレーニング室はあるのか。磯上公園は、市民福祉スポーツセンターも近くにあり、競合施設も多い。

事務局：両施設ともトレーニング室がある。近くにはイーライリリー神戸本社もあり、社員の利用もあろうかと思う。

委 員：観客席はあるのか。

事務局：両施設とも、地区体育館の位置づけであり、観客席はない。

委 員：イーライリリーの話があったが、医療関係との連携はあるのか。

事務局：現時点では考えていない。

委 員：磯上の体育館は一般市民も利用できるのか。

事務局：利用できる。

（議事② 国際スポーツイベントの状況）

委 員：事前合宿の受入れは、今までと違うかたちになるのか。

事務局：東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会より、受入にあたってのガイドラインが示されている。

委 員：市民が気軽に応援できないという状況は難しいと思うが。

委 員：選手との交流は、大会が終わってからという報道もあった。

事務局：ご指摘のとおり、選手との交流を中心に考えていた。

どのような展開ができるか検討しているところである。

今年も、ニュージーランド代表と神戸の学校の生徒でオンラインの交流やビデオメッセージの発信に取り組んでいる。

会 長：リアルとバーチャルの融合は必須になってきている。

委 員：ワールドマスターズゲームズについて、30歳以上であればだれでも参加できるとなると、すごい数になるのでは。

事務局：過去最高は25,000人だが、今大会は50,000人を目標にしている。

委 員：大会参加と併せて観光に行かれる方も多いと思う。観光のお世話もぜひしていただきたい。

事務局：海外の参加者には交通パスをつけている。組織委員会には旅行代理店も入っており、自治体としても観光プランを作成している。広範囲で開催されるので、自治体間の連携も進めている。

委員：兵庫県の事業で、地域スポーツクラブに加盟して大会に出場する場合は、補助金が出る制度がある。そのような取組もぜひ周知していただきたい。

会長：ワールドマスターズゲームズの参加者は平均 18.5 日の滞在日数。知名度が低いのは事実であり、1 年延びたことを活かして知名度の向上に取り組んでいただきたい。

委員：ボランティアがあまり集まっていないと聞くが。

事務局：県と市でボランティアセンターを設置して取り組んでいる。

委員：延期後の日程は秋にはならないか。

事務局：他のイベントとの兼ね合いがある。

(議事③ 神戸市スポーツ推進計画の進捗評価)

委員：就学前児童の取組として「Active Child Program」の項目がない。児童館などで取り組んでいるのか。

事務局：計画策定時に抜けていた観点かもしれない。こども家庭局など、関係局に確認をする。

委員：縦割りになってしまうので、プラットフォームが必要。

委員：区体育協会が 3 月で解散することになったが、スポーツ推進委員をもっと活用してほしい。

市の所管が市長部局となり、学校との関係が難しくなっている。

子どもたちへの PR 不足や、教員がチームの引率をできなくなり、参加者が減っている。

事務局：区体育協会は解散するが、これまでの取組は区が主体となって引き続き取り組むと聞いている。

教員の多忙化で、学校での広報も難しくなっている。市としても広報のやり方を考えていかなければならない。

スポーツ協会では、従来の「スポ協つうしん」に加え、学校にも配布できる子供向けの「スポ協つうしんジュニア」を発行したりしている。また、保護者に知っていただく手段として、神戸市のスポーツ情報サイト「KOBE SPORTS WEB」の充実も考えなければならぬと思っている。教員に代わる人材として、少年団野球では、審判の講習会を開いて、今まで教員が担っていたものを、地域の方々に担っていただくという取組が進んでいる。

委員：米子市のテニス協会が良い取組をしている。

学校のテニスコートは軟式テニスを使うので、硬式テニスをやりた

い子供は学校が終わると、近くのテニスコートに行く。

そこでは、協会の方やボランティアが子供たちを指導しており、先生はいない。欧米では体育の授業がなく、日本も体育からスポーツへの転換の時期がきている。

競技の普及・育成・強化には役割があり、担い手も異なる。地域の競技団体はもっと普及活動に取り組まなければならない。

委員：地域スポーツクラブが担うところも多いと思う。

「Active Child Program」もその気になればすぐにできると思う。

しかし、今のスポーツクラブは総合型の意識が薄い。

あり方検討委員会を立ち上げ、議論しているが、中々意識が高まらない。兵庫県にも話をしていくが、神戸市としても方向性を示していただきたい。

委員：毎年兵庫リレーカーニバルに参加しているが、「on your mark」の掛け声で動けない子供が多くいた。今は、本格的にスポーツをする子と、全くしない子の二極化が進んでいると実感している。

また、日本パラ陸上競技連盟の理事を務めているが、神戸で世界大会をやることで、トップアスリートの方々は大変盛り上がっている一方で、一般の障がい者の方には普及していない。

それから、女性は妊娠・出産を経てスポーツをしなくなる方が多い。子供を預けてスポーツをする環境があれば、ママ同士の交流の場になるし、良いと思う。

事務局：障がい者がスポーツに取り組むうえで一番の課題は何か。

委員：人の手を借りるところと思う。ブラインドランナーは、一番盛り上がっており、伴走ボランティアの仕組みがある。

今は東京パラリンピックや世界パラ陸上に向けて色んな取組があるが、だれでも参加できるイベントを続けていってほしい。

委員：体育館にベビーカーの乗り入れ禁止ということがあった。子育てをしている方への配慮が必要である。

障害者スポーツに関しても、だれでも参加できる機会が少なく、こちらもトップアスリートと一般の方の二極化が進んでいる。

会長：新しい日本のナショナルトレーニングセンター・イーストはパラ競技兼用であるが、調査したところ、韓国だけがパラ競技専用のナショナルトレーニングセンターを整備している。経緯を聞くと、韓国の選手は地元の体育館を使わせてもらえないということだった。

日本でも床が傷むから使えないというところがある。施設同士での情報共有が必要と感じる。

委員：神戸市はしあわせの村が整備されてから、インクルージョンの考え方が進んでおり、学校教育の中でも浸透しているが、他都市はそう

ではない。

障がい者スポーツの施設も他都市と比べて充実している。

兵庫県・神戸市はインクルージョンに関して先進的な自治体であるという認識をもってこれからも取り組んでほしい。

委員：地域スポーツクラブには、区単位の協議会で交流事業に取り組んでいる。灘区では、ユニバーサルスポーツを取り入れているが、会場までの移動が課題となっており、障がい者の参加はない。

委員：障がい者スポーツの指導者にヘルパーの資格をとってもらうという動きもある。問題なのが、ブラインドランナーの伴走者など、障がい者をささえる方のコロナウイルス感染防止ガイドラインがない。

委員：テニスでも、日本で普及している砂入り人工芝は車いすでは利用できない。日本テニス協会でも話がでていますが、一面でも良いのでハードコートを整備してもらいたい。

会長：西区の県立総合リハビリテーションセンターの福祉施設跡地に温水プールを含む障害者スポーツ拠点施設が新たに整備される。こういったところと連携していけるとよい。

(閉会)